

223
聖徒伝 200

靈的戦いの 最大の防衛

ネヘミヤ記3～4章

城壁再建工事の開始と妨害

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. 内部の問題 5章

II. 外部からの攻撃 6章

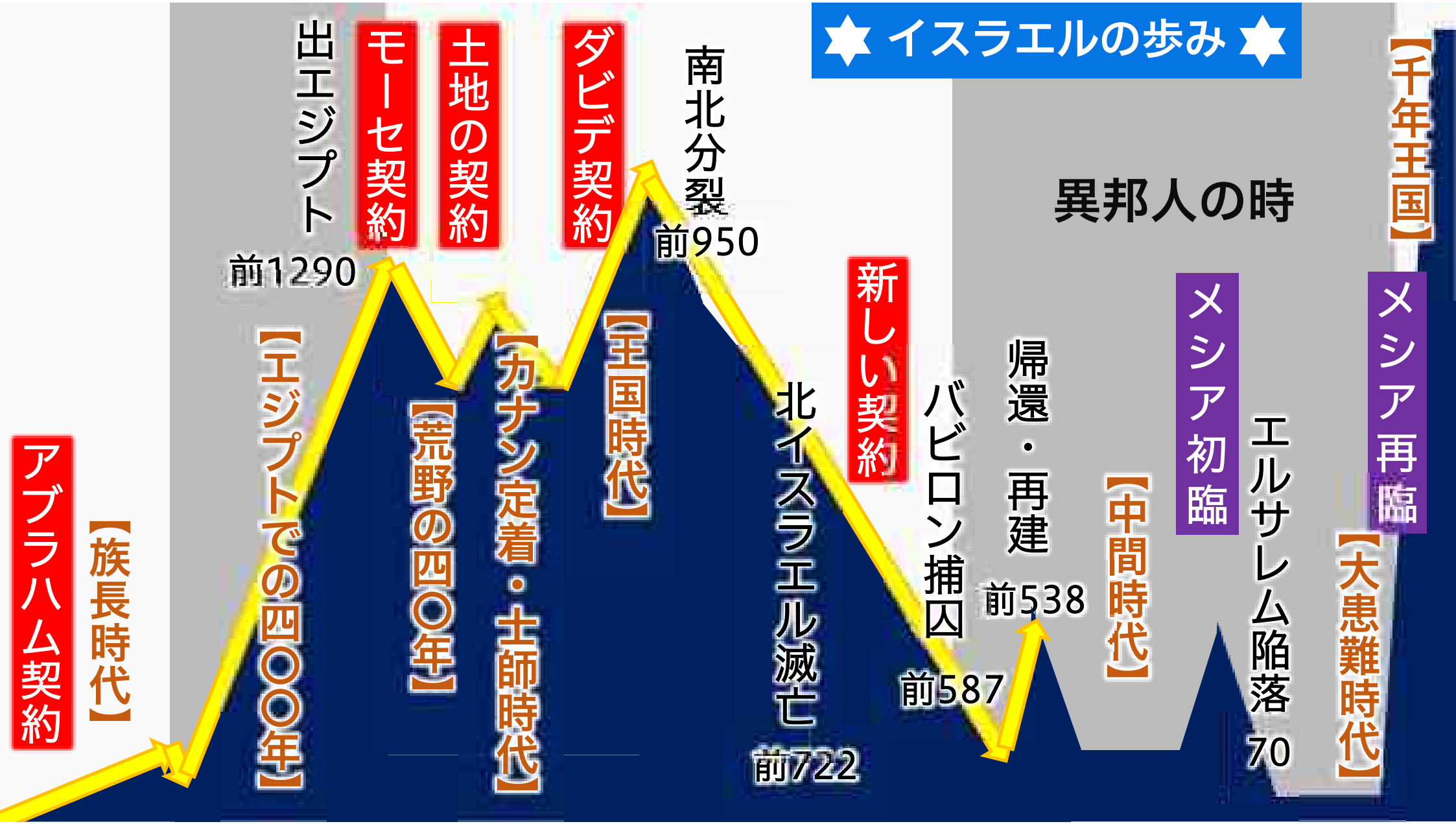
III. まとめと適用

霊的戦いの本質を学ぶ



エルサレム旧市街の城壁

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

前1290

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

前950

南北分裂

前722

北イスラエル滅亡

新しい契約

前587

バビロン捕囚

前538

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

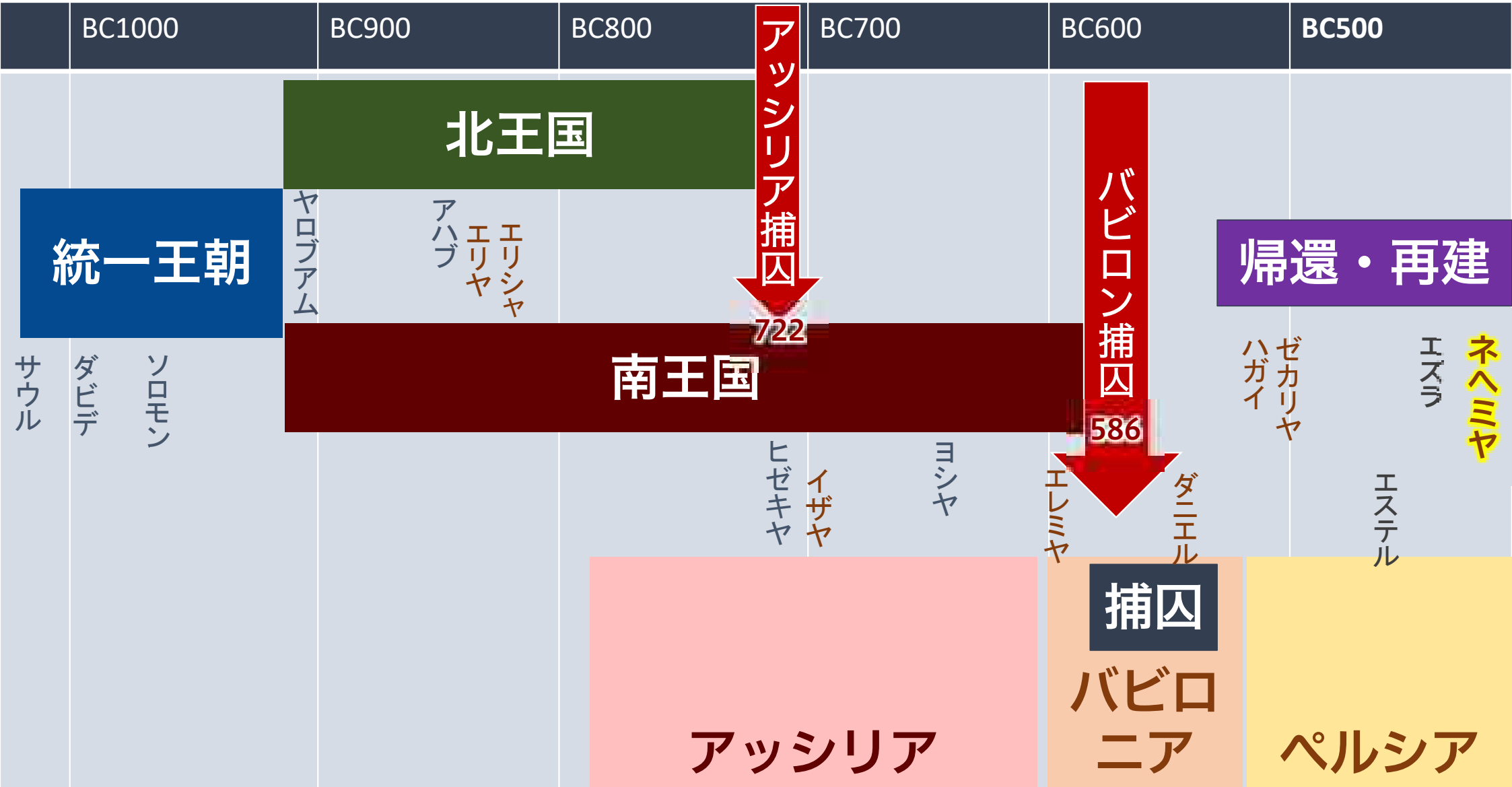
【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

イスラエル王国史



ネヘミヤ記の構成

1～6章	城壁の再建	1～2章	準備	
		3章	民の参加	
		4～6章	妨害	
7～13章	信仰の再建	7章	民の登録	
		8章	律法の朗読	
		9～13章	罪の告白と契約の締結	

年代表 捕囚後の時代

年代	イスラエル	ペルシャ
前538年	約5万人が帰還 ゼルバベル	バビロン陥落 キュロス王の布告
前520年	ハガイ・ゼカリヤの帰還	ダレイオス王 第2年
前515年	神殿の完成	
前476年	マラキ?!	エステルがペルシャの王女に クセルクス王
前458年 (80年後)	エズラ のエルサレム到着 律法の確認・霊的覚醒	アルタクセルクス1世
前444年 (14年後)	ネヘミヤが帰還・城壁再建	

ゼカリヤ書

エズラ記



I. 内部の問題

ネヘミヤ記5章

神殿の丘・西壁

訴え 同胞の訴え ネヘミヤ5:1～3

さて、民とその妻たちから、同胞のユダヤ人たちに対して強い抗議の声があがった。

ある者は、「私たちには息子や娘がいて、大人数だ。食べて生きるために穀物を手に入れなければならない」と言い、またある者は、「私たちの畑も、ぶどう畑も、家も抵当に入れなければならない。この飢饉に際して穀物を手に入れるために」と言った。

■ 食べ物にも事欠くイスラエルの同胞の姿

➔ 主の律法が守られていない証拠



訴え 窮地の人々 ネヘミヤ5:4~5

またある者は言った。「私たちは、畑やぶどう畑に課された王の税金を支払うために、金を借りなければならなかった。

現に、私たちの血肉は私たちの同胞の血肉と同じだし、私たちの子どもも彼らの子どもと同じだ。それなのに、今、私たちは息子や娘を奴隷に売らなければならない。実際、もう娘が奴隷にされている者もいる。ところが、私たちの畑もぶどう畑も他人の所有となっているので、私たちにはどうする力もない。」

■ 困窮して奴隷に身売りするしかない者も



非難 大集会 ネヘミヤ5:6~7

私は彼らの抗議と、これ~らのことばを聞いて、激しく腹を立てた。

私は十分考えたうえで、有力者たちや代表者たちを非難して言った。「あなたがたはみな、自分の同胞たちに、**利子をつけて金を貸している。**」そして大集会を開いて彼らを責め、彼らに言った。

*律法で禁じられた行為(出22:25他)



非難 同胞への罪 ネヘミヤ5:8

「私たちは、異邦の民に売られた同胞のユダヤ人を、できる限り買い取った。それなのに、あなたがたはまた自分の同胞を売ろうとしている。彼らはまた私たちに売られなければならない。」すると彼らは黙ってしまい、一言も言えなかった。

■レビ 25:42 「彼らは、わたしがエジプトの地から導き出した、わたしのしもべである。奴隷の身分として売られてはならない。」



裁定 神の民として ネヘミヤ5:9~10

私は続けた。「あなたがたのしていることは良くない。あなたがたは、私たちの敵である異邦の民から侮辱を受ける*ことなく、私たちの神を恐れつつ歩むべきではないか。

私も、私の親類の者も、私の配下の若い者たちも、彼らに金や穀物を貸してやったが、私たちはその負債を帳消しにしよう*。」

*同胞を売った非常な民だと

*率先して負債を帳消しにしたネヘミヤ



裁定 主の前の誓い ネヘミヤ5:11

だから、あなたがたも今日、彼らの畑、ぶどう畑、オリーブ畑、家、それに、あなたがたが彼らに貸していた金や穀物、新しいぶどう酒、油などの利息分を彼らに返してやりなさい。」

すると彼らは、「私たちは返します。彼らから何も要求しません。私たちはあなたの言われるとおりにします」と言った。そこで私は祭司たちを呼んで、この約束を実行する誓いを立てさせた。



妨害 祝福と呪い ネヘミヤ5:13

私はまた、衣の裾を振って*言った。「この約束を果たさない者はだれでも、神がこのように、その人の家から、また、その人の勤労の実から振り落としてくださいますように。このように振り落とされて、無一文になりますように。」すると全会衆は、「アーメン」と言って【主】をほめたたえた。こうして民はこの約束を実行した。

*長い裾を会衆に見えるよう大きく振った

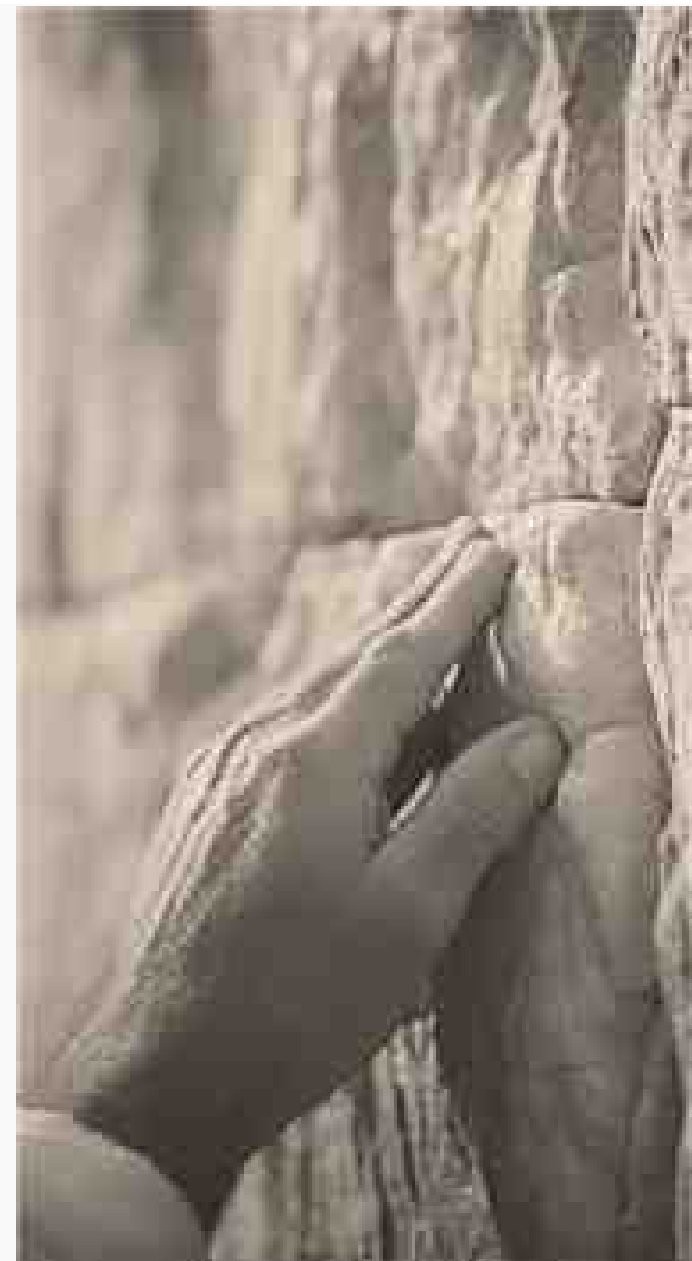


告白 総督ネヘミヤ ネヘミヤ5:14～15

また、私がユダの地の総督として任命された日から、すなわち、アルタクセルクセス王の第二十年から第三十二年までの十二年間、私も私の親類も**総督としての手当て***を受けなかった。

私の前任の総督たちは民の負担を重くし、銀四十シェケルのほかにパンとぶどう酒を民から取り立てた。しかも、彼らに仕える若い者たちは民にいばりちらした。しかし、私は神を恐れて、そのようなことはしなかった。

***民からの徴収を財源としていた？徴収権？**



告白 使命への集中 ネヘミヤ5:16~17

また、私はこの城壁の工事に力を注ぎ、私たちは農地を買わなかった*。私の配下の若い者たちはみな工事に集まっていた。

ユダヤ人と代表者たち百五十人、また私たちの周囲の国々から来る者が、私の食卓に着いていた。

*投資して財を増やそうともしなかった。



告白 主の御前で ネヘミヤ5:18~19

そのため、一日に牛一頭、選り抜きの羊六頭が料理され、私のためには何羽かの鳥*が料理された。それに、十日ごとに、あらゆる種類のぶどう酒がたくさん用意された。それでも私は、この民に重い負担がかかっていたので、総督としての手当を要求しなかった。

私の神よ。どうか私がこの民のためにしたすべてのことを覚えて、私をいつくしんでください。

*ネヘミヤ自身の食事はずっと簡素





II. 外部からの攻撃

ネヘミヤ記5章

オリーブ山から黄金門

妨害 策謀 ネヘミヤ6:1~2

さて、サンバラテ*、トビヤ、アラブ人ゲシム、その他の私たちの敵に、私が城壁を築き直し、破れ口が残っていないことが伝えられたときのこと、ただし、まだ門には扉を取り付けていなかったときのことである。

サンバラテとゲシムは私のところに使いをよこして言った。「さあ、オノの平地のケフィルムで会見しよう。」彼らは私に危害を加えようと企んでいたのである。

*サマリアの総督 → 総督同士の会見



妨害 返答 ネヘミヤ6:3~4

そこで、私は彼らのところに使者たちを遣わして言った。「私は大工事をしているから、下って行けない。私が工事をそのままにして、あなたがたのところへ下って行ったために、工事が止まるようなことがあってよいものだろうか。」 彼らは同じようなことを、**四度も***私のところに言ってよこした。それで私も同じことを彼らに答えた。

***敵の執拗さ…心理的揺さぶり**



妨害 深まる策謀 ネヘミヤ6:5～6

サンバラテは五度目にも同じようにして、若い者を私のところによこした。その手に一通の開封された手紙*を持っていた。

それには次のように書いてあった。「諸国民の間で言いふらされ、また、ゲシエムも言っていることには、あなたとユダヤ人たちは反逆を企んでいて、そのために、あなたは城壁を築き直している。このうわさによれば、あなたは彼らの王になろうとしている。」

*あえてネヘミヤ以外の目にも入るように



妨害 拒絶 ネヘミヤ6:7~8

「また、あなたは預言者さえ立てて、ここユダには王がいると、自分についてエルサレムで宣言させようとしている。今にこのことは王に聞こえるであろう。さあ、来なさい。一緒に相談しよう。」

そこで、私は彼のところに人を遣わして言った。「あなたが言っているようなことは、なされていない。それはあなたが心の中で勝手に考え出したことだ」と。

■断固として誘いに乗らなかったネヘミヤ



妨害 さらなる策謀 ネヘミヤ6:9~10

これらのことはみな、「彼らの工事に対する気力が落ち、工事は中止されるだろう」と考えて、私たちが脅すためであった。ああ、今、どうか私を力づけてください。

私がメヘタブエルの子デラヤの子シェマヤの家に行ったところ、彼は引きこもっていた*。そしてこう言った。「神の宮、神殿の中で会い、神殿の戸を閉じておこう。彼らがあなたを殺しにやって来るから。きっと夜分に殺しにやって来る。」

*けがれに触れたきよめの期間 →何のけがれ？



妨害 真相 ネヘミヤ6:11~12

そこで私は言った。「私のような者が逃げてよいものか。私のような者で、だれが神殿に入って生き続けるだろうか*。私は入らない」

私には分かった。今、彼を遣わしたのは、神ではないと。彼がこの預言を私に伝えたのは、トビヤとサンバラテが彼を買収したからだ。

*神殿に入れるのは祭司だけ

*…異邦人と会ったためのきよめだろう

➡神が立てた指導者を裏切りながら

儀式的きよめにこだわる偽善の極み



妨害 策謀の裏側 ネヘミヤ6:13~14

私が恐れて、言われるがままにして罪を犯し、私の悪評が立って、私がそしられるようにするために、彼は買収されたのだった。

わが神よ。トビヤやサンバラテのこれらのしわざと、また、私を恐れさせようとした女預言者ノアデヤ*や、その他の預言者たちのしわざを覚えていてください。

*このみ …預言者たちがグループで敵対

■ 悪魔的策謀に、神の言葉を知る預言者が!!

■ 闇の深さに、ヒゼキヤも戦慄しただろう



完成 城壁の完成 ネヘミヤ6:15~16

こうして、城壁は五十二日かかって、エルルの月の二十五日*に完成した。

私たちの敵がみなこれを聞いたとき、周囲の国々の民はみな恐れ、大いに面目を失った。この工事が私たちの神によってなされたことを知った*からである。

*啓示から1年弱。9月末頃。驚異的早さ!!

*城壁建築の真の目的

➡イスラエルの神の偉大さを知らしめる



妨害 絶えぬ火種 ネヘミヤ6:17~18

またそのころ、ユダの有力者たちはトビヤのところへひんぱんに手紙を送っていて、トビヤも彼らに返事をしていた。

それは、トビヤがアラフの子シェカンヤの婿*であり、また、トビヤの子ヨハナンもベレクヤの子メシュラムの娘を妻に迎えていたので、彼に誓いを立てていた者がユダの中に大勢いたからである。

*城壁工事を担った有力者と姻戚関係が!!

■妨害されずに工事は完了 →奇跡!!



妨害 なおも続く脅迫 ネヘミヤ6:19

さらに、彼らは私の前でトビヤの善行を語り、彼に私の言うことを筒抜けにしていた。トビヤは私を脅すために、たびたび手紙を送って来た。

■ 悪の辞書に“諦め”の文字はない。

神の民にあらゆる方向から攻撃は続く。
サタンが完全に敗北し、滅ぼされるまで。

■ 対抗手段はただ一つ。主に委ねること。
主の命令を実行に移し続けること。





Ⅲ. まとめと適用

霊的戦いの本質を学ぶ

ネヘミヤが直面した靈的戦い

① 内部の問題 …同胞への経済的搾取。律法違反

② 外部からの攻撃 …暗殺の陰謀、脅迫、恐喝、デマ
預言者の買収、偽預言
内部への支持拡大

■ ありとあらゆる方面から、様々な手段で妨害を受けたネヘミヤ

➡ 対抗手段は、ただ一つ!!

主に聞き従い、与えられた使命に邁進する!!

ネヘミヤに学ぶ 靈的戦いの二つの原則

①主に聞き従う …ネヘミヤは律法を熟知し、律法に従っていた。
→民の訴えを適切に裁定し、解決に導いた
→偽預言に騙されなかった

②主の使命に邁進する …城壁再建の使命から決してふれなかった。
→敵の誘いに乗らず、断固退けた

【適用】

①今の時代に従うべき、**キリストの律法**を熟知しているか？

②自分への**使命**を理解し、そこに力を注いでいるか？

反ユダヤ主義を警戒しよう

- 反ユダヤ主義 (= anti-Semitism) の聖書における歴史
 - ・ エジプト王ファラオによるイスラエルの男児虐殺
 - ・ アマレクによる荒野でのイスラエルの落伍者への襲撃
 - ・ イスラエルを苦しめた異民族、究極がバビロニア
 - ・ ベツレヘムの幼児を虐殺したヘロデ
- 聖書後の時代も続く、反ユダヤ主義
 - ・ ローマによるエルサレム陥落・大虐殺
 - ・ 教会による「キリスト殺し」の民としての迫害、置換神学
 - ・ ロシアのポグロム、ナチスのホロコースト
 - ・ 「イスラエル殲滅」を掲げるイスラム過激派テロ組織

究極が、反キリストによる大患難時代の大迫害・最終戦争

反ユダヤ主義の背後にあるもの

- 嫉妬？羨望？ 理屈では説明しきれない背後に、サタンの存在が!!
- サタンの究極の目標 →イスラエルを殲滅し、メシアを妨害
- イスラエルの子孫として誕生したメシアが、
 - ① 人の罪を贖う救いを成し遂げ、
 - ② 敵であるサタンと悪霊とすべての悪人・罪人を滅ぼし、
 - ③ 世界を回復し、永遠の王国を地上に建てられる。
- サタンは、目標達成のため、イスラエルを攻撃し続ける
 - ① 個々人の救いを妨げ、
 - ② 滅亡を防ぎ、
 - ③ 神の国を妨害

大患難時代が主戦場、そこにつなげるのが異邦人信者の役割

イスラエルを通して知らされる悪の本質

■内外から、あらゆる手段を講じて攻め立て続けてきた敵

- イスラエルを破滅しようとする力は、今も変わっていない
- サタンは決して諦めることがない

■「イスラエル殲滅」を公然と掲げる敵の本質を見極めよう

- 躊躇ない嘘、策謀、弱者への虐げ、貪欲、支配欲、生活の奢り、良心の欠如としか言えない残虐性…。

■対抗策は？

- 聖書を学び、**イスラエルへの神の変わらぬ契約**を知る
- 異邦人の使命として、**イスラエルの救いを祈り**、ささげる

パウロが、異邦人伝道よりも優先したエルサレム訪問

■ローマ人への手紙15:25~27

しかし今は、聖徒たちに奉仕するために、私はエルサレムに行きます。それは、マケドニアとアカイアの人々が、エルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために、喜んで援助をすることにしたからです。彼らは喜んでそうすることにしたのですが、聖徒たちに対してそうする義務もあります。異邦人は彼らの**霊的なもの**にあずかったのですから、**物質的なもの**で彼らに奉仕すべきです。

ユダヤ人、特にメシアニックジューのため、ささげよう!!

福音は、まずユダヤ人へ

■ ロマ 1:16

私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。

to the Jew first, and also to the Greek. (kjv)

→まず、ユダヤ人へ。そして、ギリシャ人(異邦人へ)

■ 異邦人の使徒パウロも、この原則を貫いた。

→新たな町では、まず、会堂でユダヤ人に伝え、

→神を恐れる異邦人に伝えた

異邦人信者として、ユダヤ人の救いを覚え、祈り、ささげよう

★ イスラエルを覚え 祈り ささげよう ★

- イスラエルのための祈り手の使命を、今こそ果たそう
- 霊肉で知るほど分かってくるのは、異邦人の私の状況も使命もイスラエルと密接に結びついているということ
 - ➔ 当然だ、イスラエルへの約束に接ぎ木されたものだから愛すべき隣人の最たる存在が、神の民イスラエル
- イスラエルのメシアを核とする主の契約と計画に堅く立とう。悪に惑わされず、イスラエルの救いを求め、祈り、ささげよう。

ただ主に聞き従い、与えられた使命に邁進しよう!!

■ マタイ福音書25:31～36

人の子は、その栄光を帯びてすべての御使いたちを伴って来るとき、その栄光の座に着きます。

そして、すべての国の人々が御前に集められます。人の子は、羊飼いが羊をやぎからより分けるように彼らをより分け、羊を自分の右に、やぎを左に置きます。

それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。』

あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

わたし すく けいやく たし つぎ き
私たちは、イスラエルの救いの契約に確かに接ぎ木されました。

ほろぼ てき さくりやく みぬ
イスラエルを滅ぼそうとする敵の策略を見抜かせてください。

とお れいてきめぐ ぶってきしゆくふく かせ
イスラエルを通した霊的恵みに、物的祝福をもって返します。

すく せつ いの しゅ しめい つかわ
イスラエルの救いを切に祈りつつ、主の使命に遣わしてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」